

令和3年2月10日

株 主 各 位

第110回定時株主総会招集ご通知に際しての インターネット開示事項

第110期（令和元年12月1日から令和2年11月30日まで）

連結株主資本等変動計算書

連結計算書類の連結注記表

株主資本等変動計算書

計算書類の個別注記表

津田駒工業株式会社

当社は、第110回定時株主総会招集ご通知に際して提供すべき書類のうち、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表ならびに株主資本等変動計算書及び個別注記表につきましては、法令及び定款第18条の規定に基づき、インターネット上の当社ウェブサイト（<https://www.tsudakoma.co.jp>）に掲載することにより株主の皆様を提供しております。

連結株主資本等変動計算書

(令和元年12月1日から令和2年11月30日まで)

	株 主 資 本				
	資 本 金	資 本 剰 余 金	利 益 剰 余 金	自 己 株 式	株 主 資 本 合 計
令和元年12月1日残高	百万円 12,316	百万円 1,655	百万円 170	百万円 △1,242	百万円 12,900
連結会計年度中の変動額					
親会社株主に帰属する 当 期 純 損 失			△4,520		△4,520
自 己 株 式 の 取 得				△0	△0
非支配株主との取引に係る 親 会 社 の 持 分 変 動		778			778
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額（純額）					
連結会計年度中の変動額合計		778	△4,520	△0	△3,742
令和2年11月30日残高	12,316	2,434	△4,349	△1,242	9,158

	その他の包括利益累計額					非 支 配 株 主 持 分	純 資 産 合 計
	そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	繰 延 ヘ ッ ジ 損 益	為 替 換 算 調 整 勘 定	退 職 給 付 に 係 る 調 整 累 計 額	そ の 他 の 包 括 利 益 累 計 額 合 計		
令和元年12月1日残高	百万円 348	百万円 0	百万円 322	百万円 △968	百万円 △297	百万円 1,236	百万円 13,839
連結会計年度中の変動額							
親会社株主に帰属する 当 期 純 損 失							△4,520
自 己 株 式 の 取 得							△0
非支配株主との取引に係る 親 会 社 の 持 分 変 動							778
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額（純額）	△76	0	56	345	325	△1,126	△800
連結会計年度中の変動額合計	△76	0	56	345	325	△1,126	△4,543
令和2年11月30日残高	272	0	379	△623	28	109	9,296

（注）記載金額は百万円未満を切捨てて表示しています。

(ご参考 平成30年12月1日から令和元年11月30日まで)

	株 主 資 本				
	資 本 金	資 本 剰 余 金	利 益 剰 余 金	自 己 株 式	株 主 資 本 合 計
平成30年12月1日残高	百万円 12,316	百万円 1,655	百万円 860	百万円 △1,241	百万円 13,592
連結会計年度中の変動額					
剰 余 金 の 配 当			△95		△95
親会社株主に帰属する 当 期 純 損 失			△594		△594
自 己 株 式 の 取 得				△1	△1
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額（純額）					
連結会計年度中の変動額合計			△689	△1	△691
令和元年11月30日残高	12,316	1,655	170	△1,242	12,900

	その他の包括利益累計額					非 支 配 純 株 主 持 分 合	資 産 計
	そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	繰 延 ヘ ッ ジ 損 益	為 替 換 算 勘 定 調 整	退 職 給 付 に 係 る 調 整 累 計 額	そ の 他 の 包 括 利 益 累 計 額 合 計		
平成30年12月1日残高	百万円 421	百万円 0	百万円 359	百万円 △910	百万円 △128	百万円 1,168	百万円 14,632
連結会計年度中の変動額							
剰 余 金 の 配 当							△95
親会社株主に帰属する 当 期 純 損 失							△594
自 己 株 式 の 取 得							△1
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額（純額）	△73	△0	△37	△58	△169	67	△101
連結会計年度中の変動額合計	△73	△0	△37	△58	△169	67	△792
令和元年11月30日残高	348	0	322	△968	△297	1,236	13,839

（注）記載金額は百万円未満を切捨てて表示しています。

連結注記表

(連結計算書類作成のための基本となる重要な事項に関する注記等)

1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 5社

共和電機工業(株)

ツダコマ・ゼネラル・サービス(株)

(株)T-Tech Japan

津田駒機械設備（上海）有限公司

津田駒機械製造（常熟）有限公司

非連結子会社の名称

ツダコマテクノサポート(株)

TSUDAKOMA SERVICE INDIA PRIVATE LIMITED

ふぁみーゆツダコマ(株)

TSUDAKOMA Europe s.r.l.

連結の範囲から除外した理由

非連結子会社はいずれも小規模会社であり、総資産、売上高、当期純損益及び利益剰余金等はいずれも連結計算書類に重要な影響を及ぼしていないため、連結の範囲から除外しております。

2. 持分法の適用に関する事項

持分法適用の関連会社の数 1社

経緯津田駒紡織機械（咸陽）有限公司

なお、経緯津田駒紡織機械（咸陽）有限公司は令和2年9月30日開催の董事会において、解散を決議し、現在同社は清算手続き中であります。

持分法を適用しない非連結子会社の名称

ツダコマテクノサポート(株)

TSUDAKOMA SERVICE INDIA PRIVATE LIMITED

ふぁみーゆツダコマ(株)

TSUDAKOMA Europe s.r.l.

持分法を適用しない理由

非連結子会社は、それぞれ当期純損益及び利益剰余金等に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため、持分法を適用しておりません。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、津田駒機械設備（上海）有限公司及び津田駒機械製造（常熟）有限公司の決算日は12月31日であります。連結計算書類の作成に当たっては、9月30日で実施した仮決算に基づく計算書類を使用しております。連結決算日までの期間に発生した重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。なお、その他の連結子会社の決算日は、連結決算日と一致しております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

① 有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は主として移動平均法により算定しております）

時価のないもの

主として移動平均法による原価法

② たな卸資産

製品、仕掛品……………主として個別法による原価法（連結貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算出）

半製品、原材料、貯蔵品…主として移動平均法による原価法（連結貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算出）

③ デリバティブ

時価法

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

① 有形固定資産

当社及び国内連結子会社は定率法、海外連結子会社は定額法によっております。ただし、当社及び国内連結子会社は、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）、平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下の通りであります。

建物及び構築物	3～50年
---------	-------

機械装置及び運搬具	4～12年
-----------	-------

② 無形固定資産

定額法によっております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（５年）に基づく定額法によっております。

(3) 重要な引当金の計上基準

① 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

② 受注損失引当金

受注契約に係る損失に備えるため、当連結会計年度末において将来の損失が見込まれ、当該損失額を合理的に見積もることができるものについて、翌連結会計年度以降の損失見込額を計上しております。

③ 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

なお、役員退職慰労金に関する内規を廃止しましたので、引当金計上額は、制度廃止日に在任している役員に対する廃止日における要支給額であります。

④ 製品保証引当金

出荷済み製品の部品交換費用等に充てるため、今後必要と見込まれる金額を計上しております。

(4) 重要なヘッジ会計の方法

イ ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を採用しております。なお、為替予約が付されている外貨建金銭債権債務等については、振当処理を行っております。

ロ ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段	ヘッジ対象
為替予約	外貨建金銭債権債務、外貨建予定取引

ハ ヘッジ方針

外貨建取引における為替変動リスクを回避する目的で、輸出入に伴う実需の範囲内で為替予約取引を行っております。

投機目的やトレーディング目的での取引は一切行わない方針であります。

ニ ヘッジ有効性評価の方法

為替予約は、相場変動額をヘッジ期間全体にわたり比較し、有効性を評価しております。

(5) その他連結計算書類作成のための基本となる重要な事項

① 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により、それぞれ発生翌連結会計年度から費用処理しております。

小規模企業等における簡便法の採用

一部の連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

② 消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

5. 表示方法の変更

連結損益計算書

前連結会計年度において独立掲記しておりました「営業外収益」の「受取保険金」（前連結会計年度18百万円）は、重要性が乏しくなったため、当連結会計年度より「その他」に含めて表示しております。

6. 追加情報

①コンポジット機械部の研究開発費について

当社は、従来、コンポジット機械部の製品開発活動に係る費用について、既存製品の改良と判断し、製造費用に計上していました。前連結会計年度よりロボットシステムインテグレーション事業がコンポジット機械部に含められましたが、同事業の拡大に伴い、研究開発の増加が見込まれます。これらに伴い、コンポジット機械部の開発活動原価は研究開発要素が強くなることから、一般管理費として計上することとしております。

なお、前連結会計年度に発生したコンポジット機械部の研究開発費のうち製造費用として処理された金額は479百万円であります。

②新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積もり

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う世界的な経済活動の停滞により、輸出比率が高い当企業グループは、海外渡航が制限され現地での営業活動ができない状況に陥り、受注・生産・売上に大きな影響を受けております。今後、政府の指針に従い、安全を確保しながら海外渡航及び海外での営業活動を再開してまいります。当面の新型コロナウイルス感染症による経済・社会への影響は一定期間継続するものと仮定し、繰延税金資産の回収可能性、固定資産の減損等に係る会計上の見積りを行っております。

なお、新型コロナウイルス感染症による経済活動への影響は不確実性が高いため、上記仮定に変化が生じた場合には、将来における財政状態、経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(連結貸借対照表に関する注記)

1. 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産

建物及び構築物	1,098百万円
機械装置及び運搬具	148
土地	248
計	1,495

上記に対応する債務

短期借入金	500百万円
長期借入金	750
計	1,250

2. 有形固定資産の減価償却累計額 39,531百万円

(連結損益計算書に関する注記)

1. 減損損失

当企業グループは、以下の資産について減損損失を計上しております。

連結子会社（津田駒機械製造(常熟)有限公司)

場所	用途	種類	金額（百万円）
中国	繊維機械製造設備	建設仮勘定	15百万円

当企業グループは、管理会計上の区分ごとにグルーピングを行っておりますが、連結子会社を含めた収支把握及び投資の意思決定は行っていないことから、当該子会社については個別に区分しております。

当連結会計年度において、事業環境の悪化と業績の低迷に伴い、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（15百万円）として特別損失に計上しております。

なお、回収可能価額は、零として評価して減損損失を測定しております。

(連結株主資本等変動計算書に関する注記)

1. 当連結会計年度末における発行済株式の総数

	当連結会計年度期首 株式数（株）	当連結会計年度 増加株式数（株）	当連結会計年度 減少株式数（株）	当連結会計年度末 株式数（株）
普通株式	6,807,555	—	—	6,807,555

(金融商品に関する注記)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当企業グループは、資金運用については安全性の高い預金等に限定し、資金調達については主に銀行借入によっております。デリバティブは、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行っておりません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、内部管理規程に沿った与信管理によりリスク低減を図っております。投資有価証券である株式は、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、定期的にその時価の把握を行っております。営業債務である支払手形及び買掛金並びに未払金は1年以内の支払期日であります。借入金のうち、短期借入金は運転資金に係る資金調達であり、長期借入金は長期運転資金または設備投資に係る資金調達であります。デリバティブ取引は、外貨建営業債権債務に係る為替変動リスクの一部に対するヘッジを目的とした為替予約取引であり、一定の社内ルールに従って実行、管理しております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

令和2年11月30日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません。

	連結貸借対照表 計上額	時 価	差 額
	百万円	百万円	百万円
(1) 現金及び預金	6,990	6,990	—
(2) 受取手形及び売掛金	4,553	4,553	—
(3) 投資有価証券	1,755	1,755	—
資産計	13,299	13,299	—
(4) 支払手形及び買掛金	1,331	1,331	—
(5) 未払金	1,985	1,985	—
(6) 短期借入金	9,981	9,981	—
(7) 長期借入金 (※)	1,299	1,299	0
負債計	14,597	14,597	0
デリバティブ取引	0	0	—

(※) 長期借入金に記載された金額には1年内返済予定の長期借入金が含まれております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項
資産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。

負債

(4) 支払手形及び買掛金、(5) 未払金、並びに (6) 短期借入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(7) 長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。

デリバティブ取引

為替予約取引の時価については、取引先金融機関から提示された価格等によっております。

(注2) 非上場株式（連結貸借対照表計上額24百万円）、子会社株式（連結貸借対照表計上額64百万円）は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3) 投資有価証券」には含めておりません。

(賃貸等不動産に関する注記)

賃貸等不動産の総額に重要性が乏しいため、注記を省略しております。

(1 株当たり情報に関する注記)

1. 1株当たり純資産額	1,437.94円
2. 1株当たり当期純損失	△707.56円

(重要な後発事象に関する注記)

該当事項はありません。

(その他の注記)

1. 企業結合等関係

共通支配下の取引等

子会社株式の追加取得

(1) 企業結合の概要

①結合当事企業の名称及びその事業の内容

結合当事企業の名称 共和電機工業株式会社

事業の内容 電気・電子機器、産業機械用制御装置、自動化システムの設計・製造・メンテナンス、ローラー、シャフトの製造

②企業結合日

令和2年3月26日

③企業結合の法的形式

非支配株主からの株式取得

④結合後企業の名称

変更はありません。

⑤その他取引の概要に関する事項

同社を完全子会社化することによりグループ力を強化し、経営資源の有効活用、効率化を図るとともに、製品開発のスピードアップ、生産体制の再構築、事業分野の拡大等、事業基盤の一層の強化を図ることを目的としております。

(2) 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成31年1月16日）及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第10号 平成31年1月16日）に基づき、共通支配下の取引等のうち、非支配株主との取引として会計処理しております。

(3) 子会社株式の追加取得に関する事項

取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価 現金及び預金

取得原価 相手先との秘密保持契約により非公開としております

(4) 非支配株主との取引に係る当社の持分変動に関する事項

①資本剰余金の主な変動要因

子会社株式の追加取得

②非支配株主との取引によって増加する資本剰余金の金額

778百万円

株主資本等変動計算書

(令和元年12月1日から令和2年11月30日まで)

	株 主 資 本				
	資本金	資本剰余金			利益剰余金
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計	その他 利益剰余金 繰越利益剰余金
令和元年12月1日残高	百万円 12,316	百万円 500	百万円 1,155	百万円 1,655	百万円 △9
事業年度中の変動額					
当期純損失					△4,514
自己株式の取得					
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額（純額）					
事業年度中の変動額合計					△4,514
令和2年11月30日残高	12,316	500	1,155	1,655	△4,523

	株主資本		評価・換算差額等			純資産 合計
	自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	評価・換算 差額等合計	
令和元年12月1日残高	百万円 △1,242	百万円 12,721	百万円 351	百万円 0	百万円 351	百万円 13,072
事業年度中の変動額						
当期純損失		△4,514				△4,514
自己株式の取得	△0	△0				△0
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額（純額）			△74	0	△74	△74
事業年度中の変動額合計	△0	△4,514	△74	0	△74	△4,588
令和2年11月30日残高	△1,242	8,206	277	0	277	8,483

(注) 記載金額は百万円未満を切捨てて表示しています。

(ご参考 平成30年12月1日から令和元年11月30日まで)

	株 主 資 本				
	資本金	資本剰余金			利益剰余金
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計	その他 利益剰余金
					繰越利益剰余金
平成30年12月1日残高	百万円 12,316	百万円 500	百万円 1,155	百万円 1,655	百万円 796
事業年度中の変動額					
剰 余 金 の 配 当					△95
当 期 純 損 失					△710
自 己 株 式 の 取 得					
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額（純額）					
事業年度中の変動額合計					△806
令和元年11月30日残高	12,316	500	1,155	1,655	△9

	株主資本		評価・換算差額等			純資産 合計
	自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	評価・換算 差額等合計	
平成30年12月1日残高	百万円 △1,241	百万円 13,528	百万円 420	百万円 0	百万円 421	百万円 13,949
事業年度中の変動額						
剰 余 金 の 配 当		△95				△95
当 期 純 損 失		△710				△710
自 己 株 式 の 取 得	△1	△1				△1
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額（純額）			△69	△0	△69	△69
事業年度中の変動額合計	△1	△807	△69	△0	△69	△877
令和元年11月30日残高	△1,242	12,721	351	0	351	13,072

（注）記載金額は百万円未満を切捨てて表示しています。

個別注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券

子会社株式及び関連会社株式……………移動平均法による原価法

その他有価証券

時価のあるもの……………決算期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの……………移動平均法による原価法

(2) たな卸資産

製品、仕掛品……………個別法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算出）

半製品、原材料、貯蔵品……………移動平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算出）

(3) デリバティブ……………時価法

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

定率法によっております。

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）、平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下の通りであります。

建物……………3～50年

構築物……………7～50年

機械及び装置……………7～12年

車両運搬具……………4～6年

(2) 無形固定資産

定額法によっております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 受注損失引当金

受注契約に係る損失に備えるため、当事業年度末において将来の損失が見込まれ、当該損失額を合理的に見積もることができるものについて、翌事業年度以降の損失見込額を計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により、それぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。

(4) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

なお、役員退職慰労金に関する内規を平成18年2月24日をもって廃止しましたので、引当金計上額は、制度廃止日に在任している役員に対する廃止日における要支給額であります。

(5) 製品保証引当金

出荷済み製品の部品交換費用等に充てるため、今後必要と見込まれる金額を計上しております。

4. ヘッジ会計の方法

① ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を採用しております。なお、為替予約が付されている外貨建金銭債権債務等については、振当処理を行っております。

② ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段

ヘッジ対象

為替予約

外貨建金銭債権債務、外貨建予定取引

③ ヘッジ方針

外貨建取引における為替変動リスクを回避する目的で、輸出入に伴う実需の範囲内で為替予約取引を行っております。

投機目的やトレーディング目的での取引は一切行わない方針であります。

④ ヘッジ有効性評価の方法

為替予約は、相場変動額をヘッジ期間全体にわたり比較し、有効性を評価しております。

5. その他計算書類作成のための基本となる重要な事項

(1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異の会計処理の方法は、連結計算書類におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

(2) 消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

(貸借対照表に関する注記)

1. 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産

建物	1,098百万円
機械及び装置	148
土地	248
計	1,495

上記に対応する債務

短期借入金	500百万円
長期借入金	750
計	1,250

2. 有形固定資産の減価償却累計額 37,810百万円

3. 保証債務

関係会社の銀行借入等に対し、下記のとおり保証を行っております。

津田駒機械製造（常熟）有限公司 581百万円（37,401千人民元）

4. 関係会社に対する金銭債権又は債務

短期金銭債権	2,828百万円
短期金銭債務	381

5. 追加情報

①コンポジット機械部の研究開発費について

当社は、従来、コンポジット機械部の製品開発活動に係る費用について、既存製品の改良と判断し、製造費用に計上していました。前事業年度よりロボットシステムインテグレーション事業がコンポジット機械部に含められましたが、同事業の拡大に伴い、研究開発の増加が見込まれます。これらに伴い、コンポジット機械部の開発活動原価は研究開発要素が強くなることから、一般管理費として計上することとしております。

なお、前事業年度に発生したコンポジット機械部の研究開発費のうち製造費用として処理された金額は479百万円であります。

②新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積もり

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う世界的な経済活動の停滞により、輸出比率が高い当社は、海外渡航が制限され現地での営業活動ができない状況に陥り、受注・生産・売上に大きな影響を受けております。今後、政府の指針に従い、安全を確保しながら海外渡航及び海外での営業活動を再開してまいります。当面の新型コロナウイルス感染症による経済・社会への影響は一定期間継続するものと仮定し、繰延税金資産の回収可能性、固定資産の減損等に係る会計上の見積りを行っております。

なお、新型コロナウイルス感染症による経済活動への影響は不確実性が高いため、上記仮定に変化が生じた場合には、将来における財政状態、経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(損益計算書に関する注記)

1. 関係会社との取引高

売上高	2,677百万円
仕入高	1,554
その他の営業取引高	917
営業取引以外の取引高	134

(株主資本等変動計算書に関する注記)

1. 自己株式に関する事項

	当期首株式数 (株)	当期増加株式数 (株)	当期減少株式数 (株)	当期末株式数 (株)
普通株式	418,429	247	-	418,676

2. 変動事由の概要

自己株式の増加は、単元未満株式の買取請求による取得であります。

(税効果会計に関する注記)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生 の 主な原因別の内訳

繰延税金資産

退職給付引当金	1,218百万円
繰越欠損金	2,070
関係会社株式評価損	733
貸倒引当金	279
たな卸資産評価損	161
賞与引当金	135
その他	287
繰延税金資産小計	4,887
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額	△2,070
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額	△2,816
評価性引当額小計	△4,887
繰延税金資産合計	-
繰延税金負債	
その他有価証券評価差額金	△121百万円
その他	△0
繰延税金負債合計	△121
繰延税金負債の純額	△121百万円

(リースにより使用する固定資産に関する注記)

該当事項はありません。

(関連当事者との取引に関する注記)

1. 子会社及び関連会社等

(単位：百万円)

種類	会社等の名称	所在地	資本金	事業の内容	議決権等の所有 (被所有) 割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
子会社	共和電機工業(株)	金沢市	50	電機製品、電気機械器具の製造・販売	(所有) 直接100.0% (被所有) 無し	当社製品の部品製造 役員の兼任	同社部品の購入	1,292	買掛金	54
									未払金	268
子会社	(株)T-Tech Japan	金沢市	100	製織用準備機械の販売	(所有) 直接51.0% (被所有) 無し	同社製品の製造及び同社製品の購入 役員の兼任	同社製品の製造	608	売掛金	394
							同社製品の購入手数料	26	未払金	5
子会社	津田駒機械設備(上海)有限公司	中国上海市	2,200 千ドル	繊維機械の据付・アフターサービス	(所有) 直接100.0% (被所有) 無し	当社製品の販売 役員の兼任	部品の販売	1,615	売掛金	1,231
子会社	津田駒機械製造(常熟)有限公司	中国江蘇省常熟市	103,390 千人民元	ウォータージェットルームの製造・販売	(所有) 直接88.39% 間接11.61% (被所有) 無し	同社製品の部品販売 役員の兼任 資金の貸付 債務保証	資金の貸付	—	その他(流動資産)	553
							利息の受取	15	その他(流動資産)	6
							部品の販売	347	売掛金	511
							債務保証	581	—	—

2. 役員及び個人主要株主等

(単位：百万円)

種類	会社等の名称	所在地	資本金	事業の内容	議決権等の所有 (被所有)割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社等	(株)梶製作所	かほく市	20	機械製造業	(所有) 無し (被所有) 直接0.1% 間接 無し	当社の外注先 役員の兼任	当社製品の加工	156	買掛金	2
									未払金	17

(注) 1. 取引金額は消費税等抜で表示し、期末残高は消費税等込で表示しております。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

- (1) 共和電機工業(株)に対する同社部品の購入等の取引条件については、一般取引先と同様当社希望価格と提示された見積価格をもとにし、交渉の上決定しております。
- (2) (株)T-Tech Japanに対する取引内容については、当社が同社へ製織用準備機械のOEM供給を行った上で同社製品の一部を購入し、最終的に当社得意先へ販売する形態をとっております。当該内部取引を相殺することで会計上の処理を行っており、上記取引金額におきましては相殺後の金額を表示しております。
また、同社に対する同社製品のOEM供給及び同社製品の購入等の取引条件等については、当社希望価格と提示された見積価格をもとにし、交渉の上決定しております。
- (3) 津田駒機械設備（上海）有限公司に対する当社製品の販売の取引条件については、一般取引先と同様当社希望価格をもとにし、交渉の上決定しております。
- (4) 津田駒機械製造（常熟）有限公司に対する資金の貸付については、市場金利を勘案して利率を合理的に決定しており、当社製品の販売の取引条件については、一般取引先と同様当社希望価格をもとにし、交渉の上決定しております。
- (5) (株)梶製作所に対する当社製品の加工等の取引条件については、一般取引先と同様当社希望価格と提示された見積価格をもとにし、交渉の上決定しております。

3. 津田駒機械製造（常熟）有限公司の銀行借入に対して債務保証を行っております。なお、取引金額には債務保証の期末残高を記載しており、保証料は受領しておりません。

4. 津田駒機械製造（常熟）有限公司への債権に対し、498百万円の貸倒引当金を計上しております。また、当期において165百万円の貸倒引当金繰入額を計上しております。

(1 株当たり情報に関する注記)

1. 1 株当たり純資産額	1,327.92円
2. 1 株当たり当期純損失	△706.59円

(重要な後発事象に関する注記)

該当事項はありません。

(その他の注記)

該当事項はありません。